

喜多原だより

NO 70

平成30年4月



喜多原学園に着任して

喜多原学園園長 田中 浩之

私は、厚生労働省の直轄施設である国立武蔵野学院と国立きぬ川学院の二つの施設を歩き来しながら、本省家庭福祉課の専門官も合わせると、三十三年間、国で働いてきました。施設では、二十年間、寮に住み込み、百二十名以上の子どもたちと共に生活を送った経験があります。そして、今回、鳥取県に割愛採用され、四月一日付で喜多原学園に園長として着任しました。私は、着任してそれほどの日数が経っていませんが、喜多原学園に招いていただいで、本当に良かったという気持ちで一杯です。

そう思う理由が、「人の縁」です。私は、福岡出身ですが、島根大学に入学し、四年間を松江で過ごしました。その間、米子にも何度も遊びやアルバイトで来ていましたが、大学を卒業して、国立武蔵野学院付属教護事業職員養成所に入所して以来、ずっと関東で暮らしてきました。米子に来て、県職員住宅に入居しましたが、入居者に私の大学時代の同級生を大変よく知っていた方がいて、すぐに同級生との三十五年ぶりの再会ができました。そして、学園で預かっている子どもの出身校の校長先生が、

若い頃に参加した「内閣府青年の船」で、オーストラリアやニュージーランドと一緒にいった仲間であったことがわかり、早速連絡を取りました。また、鳥取県や中国地方の社会的養護関係施設の方々にも厚生労働省専門官時代などに知り合った方々が沢山いました。私のこれまでの「人の縁」が、次々と繋がる不思議さに幸せな気持ちになり、感謝の気持ちで過ごしている毎日です。

新しく出会った学園や分校の先生方、預かっている子どもたちにも、学園の建物や環境、米子の風土にも良い心地や良い予感を感じます。人と人が出会うと「縁」が生じるのか、「縁」があるから人と人が出会うのかわかりませんが、同じ「縁」なら、「良い縁」にしたいと思います。このことは、私が預かった子どもたちに常々話していたことです。喜多原学園を通してこれから出会う人たち、OB会の方々、入所する子どもたちやそのご家族とも「良い縁」を築くことができたらと願っています。そう思った思いと共に、鳥取県のため、喜多原学園のため、子どもたちのために頑張りたいと思います。今後ともどうかよろしく願っています。

三年前に着任し、これまでの想い出とこれからの思いをこの『喜多原だより』に載せていただきましたが、いよいよ退職の時を迎えることになりました。

28年間、私は喜多原学園で育てていただきました。三年前の「これからの思い」がどれだけ達成できたかという点、どれほどのができただけではありませんが、自分なりに充実した喜多原ライフを送ることができたと思えます。不十分な点は多々あったと思いますが、その都度、よき子ども達、良き部下の皆さん、そして多くの関係機関の皆様のご援助により、おかげさまで、「33年間の県職員 分の28年間の喜多原学園職員の勤め」を卒業させていただきます。

今後は、これまでとは違った形で、喜多原学園を支え、応援していきたいと思っています。そして、今後ますます喜多原学園が全国に誇れる児童自立支援施設となりますよう祈っております。

皆様、お世話になりました。そしてありがとうございます。

スポーツ活動

第61回中国少年野球大会

監督 男子寮 安井 泰斗

ひとことで自分たちのチームの戦績に驚いた大会だった。投手が野球経験者でいいコントロールと球速だったことのある、通用はするだろうと考えていきましたが、児童6名のうち他の選手は野球未経験でコーチ兼選手として参加頂いたはずみ分校教員1名を除けば大人も同程度であったため、ぼろ負けはしなかったらしいなあというくらい気持ちで臨んだはずだったのですが。

ふたを開けてみれば3勝1敗、その1敗も優勝した岡山と僅差で惜敗というもので、試合の間、会場の片隅でミーティングをしていた某チームの輪から「(喜多原と) あんな試合してこのまま帰れるか」と漏れ聞こえてくる声を聞きながら、現実感のない気分を味わったのでした。

さて、結果的にはこのように満足な形で終わったとはいえ、毎年このことから野球大会に至るまでの道のりは一筋縄ではいかないものがありまし

た。本当に春にチームの結団式をしたときにはキャプテンも決めかねる有様だったことを思うと、みんな立派に頑張ったなとしみじみ思います。

一番年上だけどキャプテンは無理つす、ピッチャーも無理つす、と弱音を吐いていたどこか地に足のつかない過卒の子は見事に2試合マウンドに立ちました。バッティング練習が怖くて、バッターボックスから飛び出して逃げていた1年生は本番見事にヒットを打って、フォアボールの押し出しホームインの際に気持ちが高まったのかスライディングしていました。

野球が大嫌いでもまったくやる気が出ず、やる気がないならグラウンドから出ていけと言われて、いいんですか？ じゃあ寮に帰りますと頭を悩ませてくれた私の担当児童でもあった3年生は、大会では誰よりもチームメイトに声をかけ、まあまあ楽しかったつすと話してくれました。中には例外もあり、当初はあまり感情を出さず、やる気がないかと思われた3年生のひとり、春から通して野球だけでなくすべてにおいて生き活きとして、その運動神経もあいまって、プレイでも、雰囲気でもみんなを引っ張ってくれました。(ほんとうにこの子には感謝し

ています。) それから、好成绩の立役者でもあった投手の児童、恥ずかしがりな性格で本当はうまいのに練習ではどこか手を抜くような態度で、キャプテンもなし崩し的に指名されたものみんなの前でもじもじとしていた彼、また感情の抑制が苦手な練習試合ではデッドボールを当てたあげくに悪態をつく場面もありましたが、本番では相手チームを封殺し、どこかわがままで子供っぽさは消えないもののしつかりスポーツマンしていました。

毎年のことですが、学園生活の大きなイベントである野球大会は子どもたちの普段と違う顔を見せてくれた、また野球大会に向けてのチーム作り、児童どうしおよび児童と大人の関係づくりの成果はその後の学園生活にも反映されます。

野球だけでなく寮生活も学校生活もいままでにないくらい素晴らしかった今年度の児童たちはこの原稿を書いている現在、卒業シーズンを迎えています。積もっていた大山の雪も溶けて、雑草も顔を出しはじめて春らしいグラウンドを眺めながら、次の年の子どもたちはどんな風に走り回り、どん

な表情を見せてくれるのだろうかとうん
から楽しみです。

野球大会の思い出

男子児童作文

来たばかりですぐの野球大会だ
ったので人一倍頑張った。練習では
先輩の投げる球が怖くてバッターボ
ックスが逃げた。正直野球なめてま
した。

大会はまず開会式で倒れました(暑
かったから?)。夜はボールじゃな
くて枕を投げた。

一日目は倒れて出られなかったけ
ど二日目はバットを振ったらヒット
になった。塁に出たけどどうしてい
いか分からず、ずっとベースを踏ん
でました。そして何があったか分か
らなかつたけどホームまで戻ってき
ました。意外と楽しかったです。

帰りは、ボールの投げ方が悪かつ
たせいか手首が痛くなり、ラーメン
屋に行つたけど痛くてはしが持てな
かった。

来年は塁に出たらちゃんとリード
したい。あと体調管理ちゃんとした
いです。



女子寮バレー部の活動を通して

監督 女子寮 尾澤 理子

今年度、当職が監督をさせていただ
くにあたり、結団式で活動目標を『あ
きらめず努力し続けること、弱気は最
大の敵』とさせていただきました。当
園を利用する児童は、それまでの養育
環境から、自己肯定感が低く、困難な
事柄に向かうことが難しいです。バレ
ー部の活動を通して、毎日の練習が積
み重なり形になること、その積み重ね
が困難な事柄に立ち向かう自分自身
の糧になることを感じ取って欲しい
という気持ちで日々支援を行いまし
た。

私は、これまで運動部には所属して
いましたがバレー経験がなく、私自身
の経験からは身体作りを中心とした
支援しかできませんでした。そのよう
な状況の中で、バレーの指導経験があ
る当園次長、併設されています分校の
教諭の方、趣旨にご理解いただき外部
コーチとして関わって下さった方等、
様々な方にご協力をいただきました。
また、試合経験を積むことが難しい環
境の中、措置児童相談所の方や以前の
分校教諭の方々が練習試合の相手に
なっして下さいました。様々な方に支え

ていただいたことは、大人への不信感
の強い当園の児童達にとつて、とても
大きく心に残ったことと思います。

チームスポーツですので、日々練習
していく中で色々なトラブルもあり
ました。一時は、「自分は試合を棄権
したい」と申し出た児童もいました。
しかし、最終的には全員で大会に臨む
ことができました。さらに、大会当日
は児童から「早めに行つて練習したい」
という言葉が聞かれ、引率していた園
長から「体育館が開かないぞ」と言わ
れるほどでした。それでも、早く会場
に向かい体育館が開くまで外でラン
ニングをして過ごしました。

大会結果は、2試合ともフルセット
に持ち込みましたが、入賞に届くこと
が出来ませんでした。来年度は、また
新たなメンバーになります。今年度
同様、スポーツを通して心の成長を促
していけるような支援をしていきたく
と考えています。



バレー大会の思い出

女子児童作文

私がキャプテンをして思ったことは、チームが1つになれば必ず成功することです。

私たちのチームは喜多原だけでは人数が足らず、わかたけ学園と合同チームを組んで参加しました。まったく知らない人たちとたった2回だけ練習をしました。でも、その2回で2つのチームが1つになり、試合では負けてしまいましたが、とても良い合同チームで参加でき、とても良かったです。

試合だけじゃなく、日々の練習では良いことだけじゃなく苦しいと思うこともたくさんありました。それは、練習が始まった最初の頃、チームはまったく1つになれず、バラバラで声もまったく出してくれないし、言い合いも多くて、正直バレーのキャプテンも練習もだるい、やめたいと思うことがありました。でも、その中私は、チームをまとめるために人一倍声を出し、チームに教えてあげることだんだんチームがまとまるようになりました。チームがまとまると練習が楽しくなりました。もうあのメンバーでバレーをするこ

とは絶対ないと思います。たった1度しかないこのメンバーでのバレーは私にとってとても大切な思い出になっています。もう1度あのメンバーでバレーができればいいなあー。



中国地区児童駅伝・マラソン大会

監督 男子寮 遠藤 翔吾

11月に島根県の宍道総合公園で駅伝・マラソン大会が行われ、当園からは駅伝の部男子5名、マラソンの部男子1名が参加しました。今年は、昨年度間賞の走りを見せた「君が、キャプテンとしてチームを盛り上げてくれ」と言いたいところですが、現実には盛り上げるどころか「今日は練習やめましょうよ。」とキャプテン自らマイナスな発言をする日もしばしばありました。そうはいっても、やる時はやるのがキャプテンの仕事。日々の練習でも他児童よりも早い目標タイムを設定したり、試走で好タイムを出したりと、口ではなく背中では他児童を引っ張ってくれました。そんな「君の姿を見てかは定かではありませんが、他児童からも「今日はもう1回走りましょう!」などとききました。練習は児童と一緒に職員も走ります。「〇〇さん(職員)には負けません!」などと児童が話すこともあり、児童らにとって職員も良いライバルとなっているように感じられました。

大会本番は、今までに味わったことのない緊張感を味わいながらも、全員が自己ベストを更新する走りを見せてくれました。キャプテンの「君は区間賞に留まらず、大会全体を通して最高タイムとなりとても満足した様子でした。その他の児童についても、本番前は緊張で顔が固まっていますが、走り終わった後はプレッシャーから解放された安ど感、また、全力を出し切った疲労感や達成感など様々な感情を味わいとても良い表情をしていました。大会後に食べたラーメンはさぞかし美味しかったことでしょう。



園遊会

【児童自立支援専門員

女子寮 大石 紗希】

喜多原学園では年に2回、日頃お世話になっていらっしゃる方々をお招きし、「園遊会」を開催しています。感謝の気持ちを込めておもてなしし、子どもたちの成長した姿を見ていただくことを目的としています。昨年度の秋の園遊会では、今までは違った、新しい模擬店を出しました。学園の農場で、保育園児と一緒に育てたさつまいもを使った「豚汁」や、「茶巾絞り」を手作りしました。また、大山の郷土料理「大山おこわ」、

「揚げたい焼き」など、児童と職員で工夫したメニューを考えました。お越しいただいた皆様から「美味しかったです。」とお腹いっぱいになりました。「初めての接客も、注文を取ったり、商品を渡したり、お客様とやりとりをする中で徐々に慣れ、自信を持って役割を果たすことができました。」

ステージでは、「ぶちあわせ太鼓」を披露しました。「緊張したー!」「ち

よつと間違えた!」といろいろな感想がありました。が、何度も練習してきた成果をたくさんのお客様の前で発表し、「感動しました。」と声をかけていただき、達成感や充実感を味わえたのではないかと思います。毎年多くの方にご参加いただき、ありがとうございます。今年も皆様のご来園をお待ちしています。



学園での思い出

男子児童作文

喜多原学園で過ごして、自分が思ったことは世界観が変わることです。喜多原ではいまままで過ごしていた場所とは違うところに住むことになるんですが、ここに入って価値観や物の見え方が変わり、家族や友達の大切がわかるようになりました。

これからの自分は、ここでの経験を活かして将来にむけて頑張ることができそうです。人数が少なくてチームが組みにくかった野球や駅伝、他にもさまざまな行事をしつかりやれた自分を誇りに思うし、ここでの友達とやれたことが嬉しかったです。今後も頑張っていきたいです。



女子児童作文

私は、喜多原に来て色々学んだし、自分自身も変わりました。

最初は、喜多原に行く意味ないとか楽しくないとか思っていたけど、みんなでキャンプに行ったり寮行事に行ったり、担当の職員とLSTに言ったりして、すごく楽しかったです。

喜多原は集団生活だから、同じ人と過ごす時間が多くてイライラとかイヤなこととか辛いこともあって、いっぱい悩んで苦しかったけど、逆に集団生活だからこそ人との関わり方とかを学べるから「いいな」って思いました。それに、人間関係でイライラとか辛くなったりしたら、相談したり好きな歌を聞いたり人としやべって楽しい気分になるとか、イライラした時に落ち着くにはどうしたらいいのか分からなかったから、嬉しかったです。

それに、寮の生活でステップがあつて、上がるために手伝いとかイライラを態度に出さないとか流されないとか、色々なことを必死にがんばりました。けど、ステップが上がらない時もあったり、シヨックな時もありました。ステップが上がるときに仕事も増えて、信頼されているからちゃんとしなないといけないっていうプレッシャーもあつ



て、すごく大変だったけど、ステップがあるからこそ性格とかが良いふうに変わっているって思うし、ありがたいから、私は前向きに考えて生きてきました。喜多原は、みんなと色々な話ができるし、大山登山や梨狩りやスキーとか、自然な遊びもできて楽しいし、学校も、勉強は大変だけどみんな良い先生で、おもしろいし、イヤなことばっかりじゃなくて楽しいこともいっぱいあるなって思いました。

喜多原に来て、努力は本当にうそをつかないって思ったし、色々な人が心配してくれてるって気づきました。他の子と色々あったけど、いいメンバーだったし、喜多原に来て後悔はなかったです。

H28年 着任職員より…

【児童自立支援専門員 山田 政則】

3月31日に県を退職して、4月1日から再任用として通算三度目の勤務をしました。

担当は男子寮、スタッフは自分の三人の息子と同じような年齢です。

10年前は女子寮長でしたから、少し戸惑いましたが福祉相談センターの一時保護所で見かけた児童が入所していたり、入所してきたりでなにか初めてという実感が無かったことを覚えていきます。

1年を通して心がけたことが、学園で勤務にすることにあたり勤務に穴を開けないためにも、病気やケガをしないことに気を付けました。おかげさまで、病気やケガも無く1年を終えようとしています。

もう一つが、児童に対して『焦らず待つ』ことを心がけて支援できたことです。児童に指示して結果を焦らず待てるようになりました。

例を挙げると、4月に勤務し時は作業を着る習慣がありませんでした。まずは、職員が作業着を着て帽子をかぶり、長靴を履き手袋をすることを見せました。すると徐々に作業の服装になっていきました。

若い頃であれば大声を出して追い立てていたと思いますが、年齢を重ね60歳を越えたことも有り『焦らず待つ』ことができたように思います。

新しい春を迎え、職員の異動もあり新しい環境になるでしょうが、私自身4回目の成人式を目指して頑張っていきたいと思えます。

- 1回目 20歳の成人式
- 2回目 40歳の厄年
- 3回目 60歳の還暦
- 4回目 80歳(男子の平均寿命)

【児童自立支援専門員 音田 幸真】

平成28年4月に着任して、早いもので一年が経過しようとしています。着任当初、学園の生活に慣れることが大変でした。見るもの、聞くものが初めてで、戸惑いがあったことを覚えていきます。子どもたちとともに生活を送っていく中で、子どもたちから教わったことも多くありました。その中の一つとして、子どもたちの言動の理由を考えることが大切なのではないかという事です。子どもの表面上の言動にばかり注目して接していました。案の定、子どもからは「分かってもいな

いのに言わないでくださいよ」という返答をされます。言動の裏にはそこに至る背景がある。表面上の言動を切り取っただけでは、本質が分からない。なぜそのような行動をとったのかという背景を丁寧に捉えていかなければいけないのではないかと改めて感じました。

また、普段の生活において子どもの“ために”支援を行うことを考えていました。子どものためという支援だけでなく、子どもと“ともに”行っていく支援という意識が大切になると感じました。子どもの成長とともに、自分自身の成長も必要です。子どもに寄り添える支援ができるよう、これからも自分自身を磨いていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

【児童自立支援専門員 石本 優里】

1年前の春、喜多原学園に着任し女子寮の職員として働き始めました。大学で児童福祉分野を学んではいましたが、自立支援プログラムや寮生活のこと等現場で実践しながら理解することばかりで、学ぶことの多い1年でした。どのような児童が入所しているのか、構えながら喜多原学園での生活が始まりましたが、寮で一緒に生活し、

同じ活動をすることで、徐々に生活に慣れ、不安な気持ちは楽しさに変わっていきました。

生活の中で児童の問題行動に直面する度に戸惑ってしまい、混乱している児童に適切な声かけをすることができず、反省することも多い日々でしたが、児童と一緒に振り返りを行うなかで、私自身も成長することができたように感じます。

まだまだ未熟者なので、来年度からも学ぶ姿勢を忘れず、日々精進していきたいと思っています。

【庶務担当 係長 田中 純一】

ここ喜多原学園に着任してから早いもので1年が経とうとしています。私は子どもたちを直接支援する業務でないため、子どもたちに直接関わる各職員が、法令をはじめとする様々な枠組みの中で子どもたちのために力を発揮できるようバックアップすることを念頭に置き業務に従事しています。

さて、この子どもたちは様々な理由で入所しており、その要因となる背景もまた様々ですが、彼らのために学園職員や分校教員たちが日夜奮闘している姿を見るにつけ、こんなにも親

身になってくれる大人たちがいるという面で、この子どもたちは恵まれているなあと感じています。（子ども達自身も本当にそう感じるのは、ずっと先かも知れませんが。）

理由はあれども、家族と離れて寮で暮らす子どもたち、時には親に甘えたい時もあるでしょう。いつかこの学園を巣立ち新たな生活を始めた時、ここで学んだこと、楽しかったこと、うれしかったこと、辛かったこと、寂しかったこと、すべての経験をプラスの力にし、決してうつむくことなく前を向いて歩いて欲しいと思います。そして、学園職員や分校教員たちがそうであったように、他者のために一生懸命になれるやさしくてカッコイイ大人になってほしいなと思います。

【庶務担当 濱田 康子】

平成二十八年四月に喜多原学園勤務となり、一年が過ぎようとしています。大山に通じる観光道路沿いから見ていた学園は、実際には思っていたよりもずっと広く、自然に溢れ、美しく、すばらしい環境でした。この環境の中で児童は、寮職員や分校の先生方と、様々な経験を積み重ね、成長し、ここを離れていきます。日々の中で、児童

の明るい表情に出会えたり、運動日課の元気な掛け声を聞いたりすること、私の気持ちも上向きになり、時に胸にじんとき響きます。事務室からではありませんが、児童を心から応援したい気持ちで、いっぱいになります。

昨年の夏、女子寮のキャンプに参加した時は、いきいきと仕事をこなす児童の姿に驚きました。また大山登山の時は、「疲れた！」といいながらも、満足そうに下山する児童の姿に触れ、経験の積み重ねの大切さを感じました。ひとつひとつの経験が、子ども達の将来へとつながっていることを実感し、楽しい時も辛い時もある中で、着実に未来に向かって前進していることを感じます。この豊かな環境の中で、人との心のつながり、失敗・成功体験などを通して、心も体も成長していく貴重な時間を過ごしているのだと思います。そんな彼らのために、私ができることは、小さなことかもしれませんが、ここでの生活を少しでも心地のよいものにと願って、日々勤務しています。

ここで学び、生活した児童が、頼もしい社会人となり、愛情に満ちた人々に囲まれ、幸せな人生を送ることができるよう願っています。

ある日の食事（昼食）

- ・オムライス
- ・スープ
- ・ウインナー
- ・マカロニサラダ



平成28年度 喜多原学園の1年間

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 4月 着任式 観桜会 始業式
遠足（とっとり花回廊） | 10月 中国女子バレーボール大会（山口）
芋ほり交流（こたか保育園） |
| 5月 芋の苗植え交流（こたか保育園） | 11月 園遊会 中国児童駅伝・マラソン大会（島根）
創立記念マラソン大会 |
| 6月 園遊会 修学旅行 | 12月 保育交流（こたか保育園） 車いすバスケット交流
終業式 クリスマス会 もちつき |
| 7月 中国少年野球大会（広島）
フェール開き 終業式 | 1月 始業式 とんど フットサル交流 |
| 8月 保育交流（こたか保育園） 海水浴
キャンプ | 2月 スキー教室 |
| 9月 始業式 大山登山 | 3月 卒業を祝う会 卒業証書伝達式
修了式 離任式 |



観桜会



修学旅行（東京）



保育交流（ふれあい遊び）



キャンプ



大山登山



保育交流（芋ほり）



車いすバスケット体験



クリスマス会



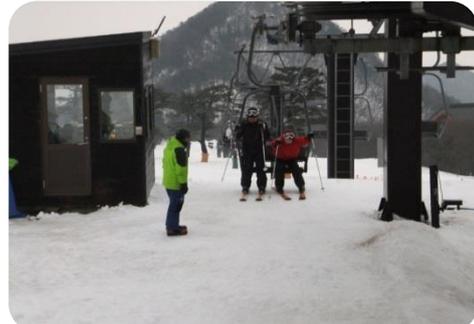
もちつき



とんど



フットサル交流



スキー・スノーボード体験



卒業を祝う会



女子寮・毎朝の朝食作り

米子市立福生中学校

いずみ分校

【2年担任 足立 一輝】

平成28年4月からいずみ分校での勤務が始まったと同時に、私の教員人生もスタートしました。いずみ分校では主に保健体育の授業を担当させていただき、また授業補助として英語や技術などの授業にも入らせていただきました。4月当初は、子どもとの関わり方に戸惑いを感じたことも多々あり、子どもとぶつかることもありました。そんな中でも、寮の運動日課に積極的に参加したり、余暇時間に一緒に遊んだりすることで、子どもとの距離は徐々に縮まりました。また、蕨採りや栗拾いなど喜多原学園でしかできない体験も子どもたちと一緒に経験することもできました。学校生活の中で、子どもが「できた!」「分かった!」と目を輝かせている瞬間を共有できたことは私にとってかけがえのない財産です。1年間、様々な経験をさせてもらった子どもたちには、喜多原学園で生活している間に心身ともに成長し、将来は幸せに生活してほしいと願うばかりです。

【社会科担当 岩坂 瑛治】

年度途中からいずみ分校に赴任することになり、不安でいっぱいでした。赴任して様子の分からない時に、分校や学園の職員の方々や生徒たちにも色々教えてもらったおかげで本来の自分のスタイルで指導にあたることができるようになりました。初めの頃生徒たちと関係がうまくいかず、どことなくぎくしゃくしていましたがお互いを知ることによって徐々に私も生徒たちにも笑顔が出てきたことを覚えていきます。その後、一緒に学習したり、体を動かしたりと楽しく活動する中で赴任当初に比べて一人ひとりが成長していく過程を目の当たりにすることができました。

この九ヶ月短い期間でしたが、様々な事情を持つ生徒たちとの関わり方や授業のあり方など多くのことを学ばせてもらった九ヶ月でした。

【国語担当 船越 睦夫】

8月の日差しの中の稗取り生活から一転して喜多原学園勤務になりました。9年前にもお世話になったのですが、建物が以前と全くちがってよそにきたようでした。一步、教室に入ってみると何と素晴らしいこともたち

でしょう。「先生はな、何でも書いてしまつていらんもんでも書いてしま

うけどちゃんと書いてよ。」と言つたら何と私の落書きのような挿絵までノートに丁寧に書き込んでいるではありませんか。その純粋な心に思わず涙が溢れてしまいました。「E」の懸かった女子運動会で小豆取りがうまくできなかった私を責めるどころか「目は大丈夫?」と優しく気遣つてくれました。定期テスト後、「先生、何点とれた?」と笑みを浮かべて聞いてくる姿・・・みんな楽しかったいい思い出です。

【理科担当 松本 一博】

平成28年の7月にいずみ分校に着任して、理科の授業を担当しました。少人数での授業は、何回か経験がありました。そのたびに個々の生徒とのかかわりの大切さを感じてきました。分校の生徒たちは、授業に対して前向きで、顕微鏡での観察や薬品に対する反応に興味を示し、実験に試行錯誤をしながら取り組む姿勢が数多く見られました。授業やいろいろな行事の中で、生徒たちとたのしく過ごせたことは貴重な体験であり、うれしく思っています。生徒たちのこれからの成長を期待しています。



後援会報告

平成28年度後援会総会が、平成28年5月11日に開催されました。

一、平成27年度事業報告	平成28年度歳入歳出決算	平成29年度歳入歳出予算
一、平成27年度収入支出決算報告	収支決算額 362,074円	収支予算額 380,000円
一、会計監査報告	支出決算額 222,829円	支出予算額 380,000円
一、平成28年度事業計画(案)	繰越額 139,245円	
一、平成28年度収入支出(案)		

〈後援会役員〉※敬称略・順不同

会長	太田雅博	委員	本池弘昭(福生中学校校長)
副会長	松永芳久	委員	馬詰俊哉(喜多原学園園長)
監事	須崎 卓	委員	山本宗伸(喜多原学園次長)
監事	中川正純	委員	中田 力登(喜多原学園職員)
会員数 61名(H29.4.1 現在)			

御寄付ありがとうございました。

※敬称略・順不同

- ・(株)備中屋本店 代表取締役 上森 英史
- ・太陽日酸エネルギー(株)中四国支社 山陰支店
- ・大高公民館
- ・安来地区更生保護女性会

児童在籍状況

	小学生		中学生		中卒生		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
H28 4月1日	0	0	5	2	1	0	8
H29 1月1日	0	0	7	4	0	0	11
H29 3月31日	0	0	3	1	0	0	4

職員の異動

学園職員

(平成29年3月31日付)

退職	園長	馬詰 俊哉
転任	次長	山本 宗伸(米子児童相談所)
	児童自立支援専門員	安井 泰人(ささえあい福祉局福祉監査指導課)
	児童自立支援専門員	藤原 敦(米子児童相談所)
	児童生活支援員	中田 力登(皆成学園)
	児童生活支援補助員	坂本 香菜(滋賀県立淡海学園)
	非常勤事務員	濱田 康子(米子児童相談所)

(平成29年4月1日付)

	園長	田中 浩之(国立武蔵野学院)
	参事	山澤 重美(米子児童相談所長 兼務)
	係長	堀江 健太郎(福祉相談センター)
	係長	青島 茂雄(福祉相談センター)
	児童生活支援員	足立 涉(皆成学園)
	児童自立支援専門員	松田 治(新規採用)

分校職員

(平成29年3月31日付)

退職	非常勤講師	船越 睦夫
	非常勤講師	松本 一博
転任	講師	足立 一輝(米子市立福米西小学校)
	講師	岩坂 瑛治(伯耆町立溝口小学校)

(平成29年4月1日付)

着任	講師	角 誠(境港第三中学校)
----	----	--------------

編集発行
鳥取県立喜多原学園

鳥取県米子市泉 706
TEL 0859-27-1101
FAX 0859-27-1611

編集後記

昨年度、本来 No.68 号を発行予定のところ、No.69 号として発行してしまいましたこと、お詫び申し上げます。今回、No.69 II号として作成させていただきました。

編集にあたり、記録している写真を見返す中で、子どもたちがさまざまな表情で生活を送っており、大変嬉しく感じました。

今年度も児童、職員みんなでよりよい学園にしていきたいと思いません。

日頃お世話になっている地域の皆様、学校の先生方、関係者の皆様に、学園職員一同、深く感謝申し上げます。今後とも御支援、御協力いただきますようよろしくお願いいたします。